

第46回飯水スキー大会 が開催されました。

2月16日(火)、第46回飯水スキー大会が開催されました。この大会は今年で46回を数える長い歴史のある大会で、飯水地区の小学校全ての5・6年生が参加します。

今年には雪不足によりコース整備ができず、開催そのものが危ぶまれましたが、コース・大会スケジュールの変更により開催することができました。

当日は、404名の選手たちが2キロ・3キロコースのどちらかで、クラシカル走法・フリー走法を選択して参加し、それぞれにゴールに向かって一生懸命滑りました。

競技中は他校の子どもたちでも互いを応援する姿が見られました。この大会は、飯水の高学年の子どもたちの友好の輪を広げることも目的の一つとされており、つながりやふれあいが広がり、更に強い絆ができた大会となりました。



児童クラブ向け、ニユー スポーツ教室を開催

飯山市スポーツ推進委員会と飯山市社会福祉協議会の共催で、市内の児童クラブ等を対象に、ニユースポーツ教室を開催しました。

この教室は、2月6日(土)に東小学校、20日(土)に秋津小学校、27日(土)に泉台小学校の各体育館で行い、スポーツ推進委員の指導のもと、キャッチング・ザ・スティック、ニチレクボール、ドッジビーの3種目で汗を流しました。ニユースポーツとは、誰もが気軽に、すぐ楽しめることを目的に考案されたスポーツです。子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の方々に対応しています。

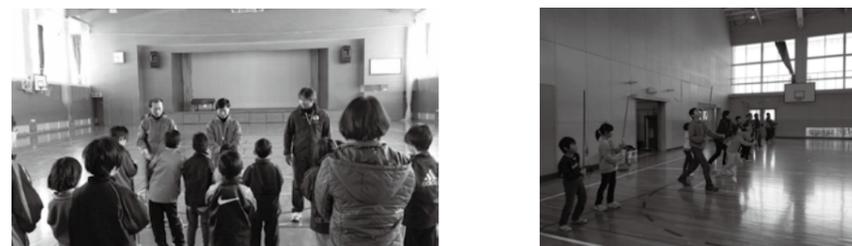
飯山市スポーツ推進委員会では、今後も市民の健康増進に向けて、ニユースポーツの普及・推進に取り組んでいきます。ご興味のある方は、飯山市スポーツ推進委員会事務局(☎62-3111)までお問い合わせください。



キャッチング・ザ・スティック

ニチレクボール

ドッジビー



卒園式のヒヤシンス

(しるやま保育園)

しるやま保育園では、毎年秋の終わりに、保育園の「近所に住む『お花の先生、丸山さん』から年長さんにヒヤシンスの球根と植木鉢のプレゼントがあり、「大事に世話をすると卒園式にきれいなお花が咲くよ」とお話をしながら一緒に植えてくださいます。子どもたちは、お水を時々あげたり、温度に適した場所に鉢を移してあげたりと、がんばってお世話をしています。地域の方々のあたたかい目で、保育園の子どもたちの成長を見守っていただき本当にありがたいと思っています。

昨年の卒園式にも色とりどりのヒヤシンスの花が卒園式会場の入り口を飾りました。今年もきつと、かわいい姿とやさしい香りのヒヤシンスの花が子どもたちの卒園を祝ってくれることと思います。

「どんなお花が咲くのかな？」と心待ちにしている5名の年長さんです。



新任者教諭の研修を行いました

飯山市と栄村の教育委員会で構成している、飯水地方教育委員会連絡協議会による、今年度2回目の新任者研修を3月1日(火)に実施しました。

今回は2回目であり、冬季の研修として、クロスカントリースキーの研修を長峰スポーツ公園にて実施しました。

この研修は、飯水地方の全児童が授業で行うクロスカントリースキーの基礎知識等を習得し、今後の指導に役立ててもらおうと、毎年実施しており、飯水地域特有の研修となっています。

飯山市ジュニアスキー育成連絡協議会より講師を派遣いただき、用具の説明やクロスカントリースキーの楽しさはもちろん、子どもたちへ指導するときの注意点を教えていただきました。研修対象者2名からは、「雪の降る地域でも、専用のコース整備がされている場所は珍しい」「今後の子どもたちへの指導にとっても役立つ」との感想がありました。



一緒に育ちあう子ども達

常盤保育園長

上原 香

先日、来年度入園する子どもたちが参加する「一日入園」を行いました。ホールで園児も全員集まり職員の人形劇を見ました。内容は、みんなが知っている『大きなかぶ』のアンパンマンバージョンです。かぶを抜くことができず、次々と助けを呼び一緒に抜きます。抜けないので最後には「常盤保育園で一番力もちの人、てつだつてー」と声が掛かりました。その時、年長児が「いちばん力もちのAくんやすみだからBくんだよ」とみんなが言いだしました。

「そうだよ、Bくんだよ」みんなに顔を見られちよつと困ったような顔のBくんでしたが、さつと立ち上がり舞台に行きました。そして大きな声で「うんとこしょ、どっこいしょ」と言い職員と一緒に参加しました。Bくんのおかげで無事にかぶが抜けました。大喜びで手をたたきました。大喜びで手をたたきました。大喜びで手をたたきました。

保育園は、一日の長い時間をともに過ごします。一人ひとりが自分を出し、のびのびと生活してほしいと願っています。そして友達と関わったりいろいろなことを体験し、嬉しかったり、くやしかったりしながら自分や友達の良さに気づいてほしいと思います。また、大人である私たちの言動は、子どもたちに大きな影響を与えていることを心にとめなくては、と思う毎日です。